

会派視察・研修報告書

会派名 公 明 党

代表者名 寺島 芳枝

1 日 に ち	令和 5 年 10月 12日、(木)13 日(金)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	第 85 回全国都市問題会議 八戸市公会堂・公会堂文化ホール 全国市長会、(公財)後藤・安田記念東京都市研究所、(公財)日本都市センター、八戸市
3 参 加 者	寺島 芳枝 片山 竜美
4 調査・研修の テーマ	「文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展」
5 主な内容	・基調講演 東京藝術大学長 日比野克彦氏 ・主報告 八戸市長 熊谷雄一氏 ・一般報告 長野県東御市長 花岡利夫氏 (株)鹿島アントラーズ FC 取締役副社長 鈴木秀樹氏 ・パネルディスカッション
6 所感、提言事項、課題等	【寺島芳枝】 岐阜市出身、東京藝術大学長、岐阜県美術館長、アーティストである日比野克彦氏の基調講演「アートの役割って何だろう？」アートとは「人が生きていく力」であり「多様性ある社会を築く基盤」、「社会的な課題に対して持続的に取り組み続けていくには大切なもの」ここに作用し生活を豊かにし、地域コミュニティを高めていくものであり、時間や世代、性差を超えてつながっていけるものと、自然に感じさせてくれる講演であった。 まさにそれを体現した八戸市の取り組み「文化によるまちづくり」を熊谷雄一市長、中心市街地の街づくりの核となる「八戸ポータブルミュージアムはっち」の事業ディレクターとして 10 年間携わった吉川由美氏の報告から、市民との想いの共有を丁寧にしていくことが、持続可能にしていく重要なことであると改めて思う。その結集がはっちの場所となり、市民の愛される拠点としていきているのだと納得。 その後の東御市花岡利夫市長の絶妙な標高を生かした挑戦、無謀とも思える計画を市民に訴え実現させていく報告など、示唆に富んだ内容でした。多治見市の市民が主役のまちづくりにどう生かしていくのか、生きづく文化をどう育てていくのか考えて行きたいと思う。

	【片山竜美】 ・八戸市は、文化とスポーツで徹底した街づくりをしていると感じた。そのために、「美術館」「ブックストア」「はっち」などの施設を建設していった。そこには、住民の反対もあったが、理解していただけるよう、徹底した住民との対話があった。 ・施設建設に当たっては、外部のプロデューサーを招へいし、「市民が参加できる」「多目的に利用できる」「持続可能な運営ができる」など、100 年使える施設を目指していることがわかった。将来を展望して、そのビジョンを示しながら取り組む市長の姿勢に感銘をうけた。 ・八戸市は、昔ながらの文化が息づいている。その文化を残し、生かそうとしているのがとても素晴らしいと思った。だからこそ、様々な施策で、市民にその文化を大切にする、継承する思いを創り出していると感じた。そういった様々な仕掛けが、結果として、市民も自主的に参画して様々な行事に取り組む姿となって表れていると感じた。 ・多治見市にも素敵な文化、歴史があるが、今一つ、生かされていない。ましてやそれを学ぶ施設や環境もあるとは思えない。今更「箱もの」を作るのは厳しいが、現在ある施設を活用して、多治見の歴史や文化を学ぶ環境を作れるのではないかと感じた。 ・東御市市長は高低差1500Mという欠点を個性とし、それを武器に変えて「ワイナリー」や「アスリーツパーク」つくっていった。そこには「何か1つNo.1に」という市長の思いがあった。合言葉の「東御から世界へ」は市民の気持ちを一つにすると感じた。
7 写 真 等 ※視察の場合は必須、研修の場合は任意	

※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。